

『新 文学国語』(文国 703) 年間学習指導計画作成のための資料

科目 文学国語	単 位 数	4 単 位
	学科・学年・学級	
	使用教科書・副教材等	『新 文学国語』(三省堂)

I 部

月	単 元	配 当 時 間	●教材のねらい 「教材名」	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
4	1 発想と感覚 文学の言葉を感じ取る	6	●言葉の響きを味わう 「二十億光年の孤独」 ●発想の展開を捉える 「虹の雌雄」	1 「宇宙はひずんでいる／それ故みんなはもとめ合う」、「宇宙はどンドン膨んでゆく／それ故みんなは不安である」とは、どういふ状況を描いているのか話し合う。 2 「僕」とは何を表現しているのか、考える。 3 「二十億光年の孤独に／僕は思わずくしやみをした」といふ表現には、どんなおもしろさがあるか、考えをまとめる。 1 虹をめぐる筆者の思いと賢治の詩とは、どのように響き合っているか、まとめる。 2 「虹が見せる熱のない炎」(27・7)とは何を表現しているか、また、それをなぜ「畏れながら慕う」(27・7)のか、短い文章にまとめる。	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ア 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解すること。 思考力、判断力、表現力等 読む ア 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えること。	知識・技能 ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 思考・判断・表現 ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解したり、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
4 5	2 読みの深まり 解釈の多様性を楽しむ	8	●さまざまな読み方を考える 「予感」 ●読みの広がりを追う 「雉始雛」	1 「わたし」の行動と気持ちの変化を、物語の展開に即して整理する。 2 「わたし」はどのような人物として描かれているか。「いつか、これに似た何かが起こるといふ予感はあった。」(32・4)という表現や「わたし」の言動を手がかりに、まとめる。 3 「もう一度実家に電話した」(35・12)ときに、電話の相手の声が二転三転しているように「わたし」が感じたのはなぜか、考える。 4 「贅沢な……証拠じゃないの。」(36・9)という言葉を「わたし」はどう受けとめたか、考える。 1 「わたし」と「サネスケ」はどのような人物として描かれているか、簡潔にまとめる。 2 「わたし」や「サネスケ」にとって、「雉」はどのような意味をもっているのかを話し合う。 3 物語の進行に伴って、この小説の全容がしだいに明らかになっていく過程を、箇条書きにして整理する。	知識及び技能 我が国の言語文化 イ 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。 思考力、判断力、表現力等 読む エ 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察すること。	知識・技能 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 思考・判断・表現 ・文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。 主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めたり、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察したりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
5	表現プラザ1 みんなであつなぐリレー小説	2	●読み手に興味をもたせる構成や展開を工夫する 「冒頭書き出し例集」	1 グループでリレー形式の小説を書いて、相互に感想を交換する。	知識及び技能 我が国の言語文化 イ 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。 思考力、判断力、表現力等 書く イ 読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫すること。 ◆エ グループで同じ題材を書き継いで一つの作品をつくるなど、共同で作品制作に取り組む活動。	知識・技能 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 思考・判断・表現 ・読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。 主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めたり、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。

月	単元	配当時間	●教材のねらい 「教材名」	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
6	3 人間の姿と心 心情の表現に読みひたる	8	●(執着)する心を捉える 「山月記」	1 「虎」になる前の李徴ほどのような人物として描かれているか、読み取ったことをまとめる。 2 袁徴ほどのような人物として描かれているか。また、李徴にとって袁徴ほど存在するか、簡潔にまとめる。 3 李徴は自分が虎になってしまった理由をどのように捉えているか。次の表現に留意し、考える。 ①理由もわからずに……生き物のさだめだ。(72・10) ②ともに、我が臆病な自尊心と、尊大な羞恥心とのせいである。(77・3) ③事実は、才能の不足を暴露するかもしれないとの卑怯な危惧と、……おれのすべでだったのだ。(77・13) ④飢え凍えようとする妻子のことよりも、……こんな獣に身を墮とすのだ。(79・11) 4 最後に李徴が叢を出て、自らの姿を袁徴の目にさらしたのはなぜだろうか、考えてまとめる。	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 イ 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 思考力、判断力、表現力等 読む カ 作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めること。	知識・技能 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 思考・判断・表現 ・作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしたり、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
			●思ふ心を捉える 「デューク」	1 次の①～⑤は、それぞれどのような様子を表現しているか、他の言葉で説明する。 ①びよびよお泣きながら(86上・2) ②匂やかな風に、毛をそよがせて目をほそめる(86下・6) ③無愛想にぼそつと(87上・15) ④蚊のなくような涙声で(87下・1) ⑤晴れたま昼の、冬の匂いがした(89下・2)		
7	4 作品の挑戦 作家のストラテジーを読み解く	8	●作品の主題を深める 「少年という名前のメカ」	1 「今までの少年たち」(101・2)に対して、老夫婦ほどのような思いをもっていたのか。「ありがとう」(102・12)を手がかりにして、考えをまとめる。 2 「主とおかみさんの胸の内に共鳴したのか、暖炉の炎が激しくはぜる」(99・15)という表現の効果について、考える。 3 「主」(=男性の老人)、「少女」(=若い女性)を特徴づける言葉遣いを抜き出す。	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 エ 文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使うこと。 思考力、判断力、表現力等 読む イ 語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈すること。 ◆ア 作品の内容や形式について、書評を書いたり、自分の解釈や見解を基に議論したりする活動。 ◆イ 作品の内容や形式に対する評価について、評論や解説を参考にしながら、論述したり議論したりする活動。	知識・技能 ・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。 思考・判断・表現 ・語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使ったり、語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈したりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
			●作中の「謎」を考える 「バースデイ・ガール」	1 最後の場面で老人の言葉が繰り返されることに、どのような効果があるか、考える。 2 この作品で、語り手がどのように交代しているかを整理する。また、そのことがどのような効果をもたらしているか、考えをまとめる。		

月	単元	配当時間	●教材のねらい 「教材名」	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
9	表現プラザ2 想像からの語り	2	●心情の語り方を工夫する 「未知へ」「夕焼け」「売炭翁」	1 作者や登場人物の心情を自由に想像して、詩を一人称で語る文章に書き換え、お互いに批評する。	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ア 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解すること。 思考力、判断力、表現力等 書く ア 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にすること。 ◆イ 登場人物の心情や情景の描写を、文体や表現の技法等に注意して書き換え、その際に工夫したことなどを話し合ったり、文章にまとめたりする活動。	知識・技能 ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 思考・判断・表現 ・文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。 主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしたことに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
9 10	5 意味と解釈 表現の意味を捉え直す	8	●叙述から心情を想像する 「ころ」 ●叙述の意味を解釈する 「物語もっと深読み教室」	1 次の点について考えをまとめる。 ①「私」(=先生)はKのことをどう捉えていたか、また、「お嬢さん」に恋をしたことにより、それがどのように変わったか。 ②「私」(=先生)と「お嬢さん」は、それぞれ相手に対してどのような感情を抱いていたか、考えをまとめる。 2 次のときの「私」(=先生)の心情を考える。 ①「精神的に向上心のないものはばかだ」(156上・7) ②「おれは策略で勝っても人間としては負けたのだ」(169上・7) 3 次の言動をした時のKの心情を説明する。 ①「はばかだ」とやがてKが答えました。「僕ははばかだ」(157上・8) ②すると彼は卒然「覚悟？」と聞きました。……「覚悟、一覚悟ならぬこともない。」とつけ加えました。(158下・4) 4 次の表現が象徴・暗示することを考える。 ①私はちよど他流試合でもする人のようにKを注意して見ていたのです。(155下・5) ②私にはKがその刹那に居直り強盗のごとく感ぜられたのです。(157上・11) ③「それでも私はついに私を忘れることができませんでした。」(170上・7)	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ウ 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めること。 思考力、判断力、表現力等 読む オ 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めること。	知識・技能 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 思考・判断・表現 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。 主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めたり、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
10 12	6 近代の創造 近代の文章に価値を見いだす	1 2	●極限の表現に迫る 「永訣の朝」	1 全体を四つの部分に分け、「わたくし」の行動と心情の変化をまとめる。 2 次の詩句には、「わたくし」のどのような心情があらわれているか、説明する。 ①うすあかきいっそう陰惨な雲 ②みなれたちやわんのこの藍のもやう ③やさしくあをじろく燃えてゐる ④あんなおそろしいみだれたそらから／このうつくしい雪がきたのだ 3 「(あめゆじゆとてちてけんじや)」の繰り返し表現は、この詩にどのような効果をもたらしているか、また、「(Ora Orade Shitori egumo)」、「(うまれでくるたて……うまれてくる)」の表記の仕方には、どのような効果があるか、それぞれ説明する。	知識及び技能 我が国の言語文化 ア 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めること。 思考力、判断力、表現力等 読む ウ 他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察すること。 ◆オ テーマを立てて詩文を集め、アンソロジーを作成して発表し合い、互いに批評する活動。	知識・技能 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 思考・判断・表現 ・他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について考察している。 主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めたり、他の作品と比較するなどして、文体の

月	単元	配当時間	●教材のねらい 「教材名」	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
			●時代を超えた心情に迫る 「たけくらべ」	1 できごとの経過にそって、「美登利」の気持ちの推移をまとめる。 2 「美登利」と「信如」は、それぞれどのような人物として描かれているか、まとめる。		特徴や効果について考察したりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
			●作家の人間像を捉える 発展探究「正岡子規—もうひとつの顔」	1 「子規の二つの顔」とは、どのような顔か、また、なぜそのような顔が見えてきたといっているのか、考える。 2 子規の絶筆三句の滑稽味について、どのように捉えているか、考える。		
1	表現プラザ3 現代に甦る歌物語	2	●読み手を引きつける表現の工夫をする 「古典和歌・近世俳句」	1 和歌・俳句からストーリーを想像して現代版歌物語を書き、交流する。	知識及び技能 我が国の言語文化 ア 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めること。 思考力、判断力、表現力等 書く ウ 文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫すること。 ◆ウ 古典を題材として小説を書くなど、翻案作品を創作する活動。	知識・技能 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 思考・判断・表現 ・文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫している。 主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めたり、文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるよう工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
2 3	7 史実と虚構 歴史の語り方について考える	1 2	●史書が伝えるものを捉える 「項羽と劉邦—『史記』を読む」	1 「項羽と劉邦」の本文(228～231ページ)で描かれる両者の争いの経過と結末について、年表として、簡潔にまとめる。 2 項羽の敗因と劉邦の勝因について、本文に書かれた内容を200字程度でまとめる。	知識及び技能 我が国の言語文化 ア 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めること。 思考力、判断力、表現力等 読む オ 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めること。	知識・技能 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 思考・判断・表現 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。 主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めたり、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
			●物語に投影された解釈を考える 「花山天皇の退位—『大鏡』を読む」	1 筆者の評論と『大鏡』の原文とを対照させながら、事件の経過を時系列にそってまとめる。 2 『大鏡』では、兼家や道兼をどのような人物として描いているか。本文中の『大鏡』原文をあわせて読み、考えたことをまとめる。		
			●歴史と文学の接点を捉える 発展探究「歴史から物語、そして歴史物語へ」	1 「歴史(日本紀)」「物語」「歴史物語」は、どのような意味で使われているか、考える。 2 『栄花物語』の作者が、「両者を統一するという荒わざを試みた」(248下・5)というのはどういう意味か、考える。		

月	単元	配当時間	●教材のねらい 「教材名」	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
			<p>●交流を通して文章を整える 「ちりめんの赤色に映る恋の哀切」 「大和ことばの柔らかさ」（「たけくらべ」の書評）</p>	<p>1 好きな本を選んで書評を書き、相互評価によって文章をより向上させる。</p>	<p>知識及び技能 言葉の特徴や使い方 イ 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。</p> <p>思考力、判断力、表現力等 書く エ 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてほしいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。</p>	<p>知識・技能 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。</p> <p>思考・判断・表現 ・文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてほしいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。</p> <p>主体的に学習に取り組む態度 ・「知識・技能の評価規準」+「思考・判断・表現の評価規準」+「粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしたり、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてほしいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。</p>

Ⅱ部

月	単元	配当時間	●教材のねらい 「教材名」	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
4 5	8 想像と創造 文学の想像力を捉える	1 2	●現実と非現実の境界に遊ぶ 「月火水木金土日」 ●古典文学の魅力と向き合う 「源氏物語一北山の垣間見」 ●想像力と創造力のつながりを捉える 発展探究「想像への畏敬一大和路をゆく」	1 「籠おばさん」の出現から別れまで、「わたし」はどう変化していったか、まとめる。 2 「籠おばさん」の話し方には、どのような特徴があるか、考える。 3 雑貨屋での再会が、「籠おばさん」と話す最後の機会だとわかっていたのはなぜか、考える。 1 作中に登場する人物相互の関係を、光君(光源氏)を中心とした人物相関図に表す。 2 少女(若紫)はどのような人物として描かれているか、容姿や行動の叙述をもとにして説明する。 3 「女房」や「尼君」は、この時の暮らしに対して、どのような思いをもっているか、考えてまとめる。 1 「想像力の歴史」(284下・12)とはどのようなことか、考える。 2 筆者を日本の古典文学へと駆り立てているものは何か、考える。	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ア 言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解すること。 思考力、判断力、表現力等 読む キ 設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。	知識・技能 ・言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 思考・判断・表現 ・設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+【粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている】。 例) 言葉には想像や心情を豊かにする働きがあることを理解したり、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
5	表現プラザ5 表現の宝さがし	2	●素材を吟味し、すぐれた表現を追究する 「ことばの不思議」	1 自作の短歌・俳句を読み合い、よりよい表現を探る。	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 エ 文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使うこと。 思考力、判断力、表現力等 書く ア 文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にすること。 ◆ア 自由に発想したり評論を参考にしたりして、小説や詩歌などを創作し、批評し合う活動。	知識・技能 ・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。 思考・判断・表現 ・文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしている。 主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+【粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている】。 例) 文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使ったり、文学的な文章を書くために、選んだ題材に応じて情報を収集、整理して、表現したいことを明確にしたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。
6 7	9 作品の変貌 言語文化の可能性を追求する	1 2	●読みを他の方法で表現する 「鞆」 ●作品とメディアについて考える 「竹取物語一かぐや姫の昇天」 ●文学のもつ社会的な広がりを考える 発展探究「ピクニックの準備」 発展探究「映画『夜のピクニック』」	1 「一種の消去法と言いますか、けっきょくこころしかなことがわかったわけです。」(297上・2)とはどういうことか、考える。 2 「鞆」に対する「私」の見方は、どのように変化していったか、物語の進行にそって整理する。 3 鞆の重さが、ぼくの行き先を決めてしまうのです。」(297上・15)と、「選ぶ道がなければ、迷うこともない。私は嫌になるほど自由だった。」(299下・12)という表現を手がかりにして、「鞆」とはどのようなことを示唆しているのか、考える。 1 「翁」はどのような人物として描かれているか、考える。 2 「翁」と「かぐや姫」のそれぞれの思いは、どのようにすれ違っているか、考えを文章にまとめる。 1 小説「ピクニックの準備」は、登場人物のどんな状況や心理を描いているか、考える。 2 映画「夜のピクニック」に関係した人たちは、どのような思いを抱いていたか、考える。	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ウ 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めること。 思考力、判断力、表現力等 読む キ 設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。 ◆ウ 小説を、脚本や絵本などの他の形式の作品に書き換える活動。 ◆エ 演劇や映画の作品と基になった作品とを比較して、批評文や紹介文などをまとめる活動。	知識・技能 ・文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めている。 思考・判断・表現 ・設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+【粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている】。 例) 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めたり、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。

月	単元	配当時間	●教材のねらい 「教材名」	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
7	表現 ブラザ6 言葉でスケッチ	2	●五感で感じたことを言語に表現する 「ミュシヤ、ゴッホ、河鍋曉斎、モネの 絵画作品」	1 絵画からよみとったことを言葉で描写し、 相互に論評する。	知識及び技能 言葉の特徴や使い方 ウ 文学的な文章やそれに関する文章の種 類や特徴などについて理解を深めること。 思考力、判断力、表現力等 書く エ 文章の構成や展開、表現の仕方などに ついて、伝えたいことや感じてほしいこと が伝わるように書かれているかなどを吟味 して、文章全体を整えたり、読み手からの助 言などを踏まえて、自分の文章の特長や課 題を捉え直したりすること。	知識・技能 ・文学的な文章やそれに関する文章の種 類や特徴などについて理解を深めている。 思考・判断・表現 ・文章の構成や展開、表現の仕方などに ついて、伝えたいことや感じてほしいこと が伝わるように書かれているかなどを吟味し て、文章全体を整えたり、読み手からの助言 などを踏まえて、自分の文章の特長や課題 を捉え直したりしている。 主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の 評価規準】+「粘り強い取り組みを行う中で、自 らの学習を調整しようとしている」。 例) 文学的な文章やそれに関する文章の種 類や特徴などについて理解を深めたり、文 章の構成や展開、表現の仕方などに ついて、伝えたいことや感じてほしいこと が伝わるように書かれているかなどを吟味し て、文章全体を整えたり、読み手からの助言 などを踏まえて、自分の文章の特長や課題 を捉え直したりすることに向けた粘り強い取 り組みを行う中で、自らの学習を調整しよう としている。
9 10	10 文学の 普遍性① 時代を越えて 生きる古典 文学を 温める	14	●人間に対する考え方を深める 「雨月物語一浅茅が宿」 ●自然に対する見方を深める 「方丈記一養和の飢饉・大地震」 ●社会に対する見方を深める 「古譚」 ●文学から世界への見方を深める 『虫めづる姫君』の観察眼	1 勝四郎はもともとどのような人物であつた か、またそれが、どんなできごとをきっかけ として、どう変化していったか、考える。 2 宮木が勝四郎の前に現れたのはなぜか、 考える。 3 この作品に描かれたそれぞれ人物の生き 方についてどのように思うか、語る。 1 筆者が考える理想の住まいとは、どのよ うなものを考える。 2 古典の作品に自然災害に関する叙述が 残されていることには、どんな意義があるの かを考える。 3 今まで読んだ古文の随筆(「枕草子」や 「徒然草」など)と内容や書きぶりなどを比 べ、その相違を指摘する。 1 末尾部分で「ふたたびめぐりあつた古譚に 私はいま/まるで違つた物語を読んではま つて」と詠んでいるが、これはどういうこ とを意味しているか、考える。 2 桃源郷を、「道筋と入口」、「景観・環境」、 「人々の生活と心情」、「戦乱」、「外界との交 渉」などの視点からみると、陶淵明はどんな 世界として描いているか、まとめる。また、そ のような世界を描いたのはどんな思いから であつたと想像できるか、考える。 3 時代や国境を越えて、人間が桃源郷に思 いをはせるのはなぜか、考える。 1 筆者は「姫君」をどのようにみているか。 「生きものを機械のように見」(358上・2)で、 科学や「異常で非常識な女性として」(362 上・3)みる文学との違いがどこにあるのかを 手がかりに考える。 2 筆者が「めづる」という言葉にこだわるのは なぜか、考える。 3 「虫めづる姫君」を現代に生きる価値のあ るものとしてみているのは、筆者のどのよ うな考えからか、まとめる。	知識及び技能 我が国の言語文化 ア 文学的な文章を読むことを通して、我が 国の言語文化の特質について理解を深め ること。 イ 人間、社会、自然などに対するものの見 方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意 義と効用について理解を深めること。 思考力、判断力、表現力等 読む オ 作品に表れているものの見方、感じ方、 考え方を捉えるとともに、作品が成立した背 景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品 の解釈を深めること。 カ 作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社 会、自然などに対するものの見方、感じ方、 考え方を深めること。 キ 設定した題材に関連する複数の作品な どを基に、自分のものの見方、感じ方、考 え方を深めること。	知識・技能 ・文学的な文章を読むことを通して、我が 国の言語文化の特質について理解を深めて いる。 ・人間、社会、自然などに対するものの見 方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意 義と効用について理解を深めている。 思考・判断・表現 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考 え方を捉えるとともに、作品が成立した背景 や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の 解釈を深めている。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、 自然などに対するものの見方、感じ方、考 え方を深めている。 ・設定した題材に関連する複数の作品など を基に、自分のものの見方、感じ方、考 え方を深めている。 主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の 評価規準】+「粘り強い取り組みを行う中で、自 らの学習を調整しようとしている」。 例) 文学的な文章を読むことを通して、我が 国の言語文化の特質について理解を深め たり、作品に表れているものの見方、感じ 方、考え方を捉えるとともに、作品が成立 した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、 作品の解釈を深めたりすることに向けた粘 り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整 しようとしている。 ※我が国の言語文化ア、読むオ、の場合

月	単元	配当時間	●教材のねらい 「教材名」	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
			●設定したテーマの調査・研究を行い、小論文にまとめる 「調査・研究型小論文を書く」	1 「古典文学」を対象として、自分の調査・研究のテーマを決める。 2 テーマのもとに集めた情報を整理する。 3 整理した情報に基づいて自分の考えを述べる。	知識及び技能 我が国の言語文化 ア 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めること。 イ 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。 思考力、判断力、表現力等 書く イ 読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫すること。 エ 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてほしいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直ししたりすること。	知識・技能 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 思考・判断・表現 ・読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。 ・文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてほしいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直ししたりしている。 主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めたり、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。 ※我が国の言語文化ア、書くイ、の場合
11 ～ 1	11 文学の普遍性② 空間を越えて生きる翻訳文学の価値を見つける	1 4	●人間についての考え方を深める 「星の王子さま」 ●社会とのつながりについて考えを深める 「藤野先生」 ●人類に共有される課題について考えを深める 「ナガサキの郵便配達」 ●異文化との交流の意義について考えを深める 「卵を抱きながら。もしくは、くせになる翻訳」	1 「王子さま」はどのような人物として描かれているか、考える。 2 「この世でたったひとりの人になる」(375上・7)という言葉と関連づけて捉えると、「仲よくなる」(374下・16)というのは、どういうことを示唆しているか、考える。 3 「かんじんなことは、目には見えない」(379上・4)という言葉は、何を伝えようとしているか、また、人間の世界をどのように見ていると考えられるか、考えをまとめる。 1 「私」が来日したばかりの頃の生活や考えについて、簡潔にまとめる。 2 「この時この場所で私の考えは変わった」(384下・8)とあるが、「この時」と「この場所」についてまとめる。そのうえで、「私の考え」の変化を説明する。 3 「今でもよく彼のことを思い出す」(385上・13)という「私」にとって、「彼」はどのような人物として記憶されているか。「私」の人物像を踏まえて考える。 1 イギリス人ジャーナリストである筆者がこの作品に向かわせた原動力は何だったのか、考える 2 この作品の語りの「視点」について整理する。また、それはこの作品にどのような効果をもたらしているかを考える。 3 この作品から感じ取ったことやこの作品が社会に与えた影響について考えをまとめる。 1 今までに読んだ翻訳作品とその印象について交流する。 2 ドイツ文学の翻訳者として、筆者が感じている苦勞と楽しみとはどのようなものか、考える。 3 「翻訳は『宝さがし』+『伝言ゲーム』+『飼育ごっこ』のようだ。」(407上・16)とはどういう意味か、考える。	知識及び技能 我が国の言語文化 ア 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めること。 イ 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。 思考力、判断力、表現力等 読む オ 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めること。 カ 作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めること。 キ 設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。	知識・技能 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 思考・判断・表現 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ・設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めたり、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。 ※我が国の言語文化イ、読むカ、の場合

月	単元	配当時間	●教材のねらい 「教材名」	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
			●自分の考えに対する根拠を検討し、小論文にまとめる 「意見・主張型小論文を書く」	1 「翻訳文学」を対象として、根拠を明示しながら提起された問題に対する自分の意見や主張を述べる。	知識及び技能 我が国の言語文化 ア 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めること。 イ 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。 思考力、判断力、表現力等 書く イ 読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫すること。 エ 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。	知識・技能 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 思考・判断・表現 ・読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。 ・文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。 主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている」。 例)人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めたり、読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫したりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。 ※我が国の言語文化イ、書くイ、の場合
1 3	1 2 文学の普遍性③ 自分と未来をつなぐ文学の魅力を探る	1 4	●人間のもつ本性について考える 「山椒魚」 ●人間の存在について考える 「珊瑚のリング」 ●人生の未来図について考える 「旅する本」	1 次の言葉から、それぞれの場面での山椒魚の思いを説明する。 ・「なんという……」(416上・7) ・「ああ神様……」(417下・12) ・「ああ寒いほど……」(418下・8) 2 この小説に描かれた山椒魚の言動や考えから、どのような思いをもったか、文章にまとめる。 3 この小説の結末について、どう評価するか、自分の考えをまとめる。 1 この作品を読んで感じたことを、自分なりの言葉で表現する。 2 「私」が「母」の遺品を時間をかけてひとつひとつ整理しようと思ったのはなぜか、また、その間に、「私」の気持ちはどのように変化していったか、考える。 3 母から受け取った「珊瑚のリング」が、現代社会で働いている「私」にもたらしてくれたものは何か、考える。 1 「本」は、「男」や「男の子」にどのようなことをもたらしたか、それぞれの物語をまとめる。 2 「本」とはどのようなものとして描かれているか。次の表現を手がかりに話し合う。 ・読む者にかけてくれる魔法(429下・13) ・自分だけの物語(432下・8) 3 これまでの読書体験の中で、自分のつらさや喜びなどに寄り添ってくれた本について紹介し合う。	知識及び技能 我が国の言語文化 ア 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めること。 イ 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。 思考力、判断力、表現力等 読む オ 作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めること。 カ 作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めること。 キ 設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めること。	知識・技能 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 思考・判断・表現 ・作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。 ・作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ・設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている」。 例)人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めたり、設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めたりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。 ※我が国の言語文化イ、読むキ、の場合

月	単元	配当時間	●教材のねらい 「教材名」	学習活動	学習指導要領の指導事項 ◆言語活動例	評価規準
			●言葉を通してつながることについて考える 「文学の未来」	1 「読者という他者に～完成する」(435下・7～8)とあるが、筆者は、文学作品と読者との関係をどのようなものかと考えているか、説明する。 2 文学作品が読者に対して働きかけてくることについて、どのように理解し考えたか、まとめ。 3 これまでに読んできた文学作品の中で、「自分と自分を取り巻く世界に対する意識ががらりと変化させられた」(438上・5)ものを思い返して、考えをめぐらせる。		
			●自分の企画・提案内容を検討し、小論文にまとめる 「企画・提案型小論文を書く」	1 「近代・現代文学」を対象とし、与えられた課題に対して、多くの賛同を得られるように自分の企画・提案を述べる。	知識及び技能 我が国の言語文化 ア 文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めること。 イ 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。 思考力、判断力、表現力等 書く イ 読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫すること。 エ 文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすること。	知識・技能 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 思考・判断・表現 ・読み手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫している。 ・文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりしている。 主体的に学習に取り組む態度 ・【知識・技能の評価規準】+【思考・判断・表現の評価規準】+「粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている」。 例) 人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めたり、文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることに向けた粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。 ※我が国の言語文化イ、書くエ、の場合

